

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570200521		
法人名	社会福祉法人 むべの里		
事業所名	グループホーム芳玉園		
所在地	宇部市大字東須恵丸田3454-2		
自己評価作成日	平成27年10月1日	評価結果市町受理日	平成28年6月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成27年10月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の希望を把握し、御家族の協力のもとセンター方式を利用したり、担当制を活用したりして、個人の思いを理解するように努めている。お地藏様参り、体操、掃除など毎日のペースを大切にされた支援に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日常の関わりの中での利用者の様子や会話、気づきなどをケース記録に記録しておられる他、定期的にご利用者に実施されているアンケート「思い出し帳」などを活用されて、本人の思いや意向を把握しておられ、できることはすぐに対応されるなど、本人の思いに添った個別の支援に努めておられます。管理者は、日頃から職員が意見や提案をだしやすい環境づくりに努めておられ、理念にある「思いやり、目配り、気配り」を、職員は常に心がけられて支援に努めておられます。利用者を担当する職員が利用者様を「家族だより」で家族に定期的に報告されたり、毎日のように面会に来られる家族からの気づきを常に大切にしておられるなど、家族からの意見が出やすいような関係づくりに努めておられ、事業所と家族間の信頼関係を築かれて、支援につながるように努めておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	思いやり、目配り、気配りを常に心掛け、会議等で職員同士共有し理念の実践につなげている。	法人の理念と事業所独自の理念を事業所内に掲示している。「思いやり、目配り、気配り」に心がけ、管理者と職員は月1回の職員会議等で資料を基に確認して、共有し、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月一回の日舞や、歌の見学、敬老会などで地域の方と触れ合ったり、近所の方のミニマートの差し入れがあったり、又、毎月1回のふれあい市場には参加し、交流している。	職員は、毎週、最寄りの駅の清掃を自主的に行っている。利用者は、併設のデイサービスの利用者と一緒に、ボランティア(日本舞踊、太鼓、フラダンス、カラオケ)と交流している他、散歩時に近隣の人と挨拶を交わしたり、野菜や果物などの差し入れがある。月1回の「ふれあい市場」で野菜の買い物を楽しんでいる。	・事業所と地域とのつきあいの工夫
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、近況報告をさせていただき認知症の理解に努めている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	玄関先に掲示し、どのように取り組んだらよいか、各自考え実践している。	自己評価をするための書類を職員全員に配布して記入してもらい、管理者がまとめている。自己評価を通して利用者への「思いやり、目配り、気配り」を大切にすることを話し合っている。前回の「外部評価結果を受けて、緊急時の地域の協力体制について検討している。全職員が評価の意義や項目の理解をするまでには至っていない。	・評価の意義の理解と活用

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	気になる事等、報告を必ず行い、話合っている。	今年度は、会議を4回開催している。利用者の近況報告、行事予定、行事報告、避難訓練等について報告して、話し合っている。地域からは民生委員の参加を得ているが、自治会長等、地域からの協力は得られていない。昨年度の議事録が見当たらず議事録による確認ができない。	<ul style="list-style-type: none"> ・開催回数の検討 ・地域メンバーの拡大 ・議事録の作成
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	どんなことでも相談出来る関係が出来ている。	市担当者とは、運営推進会議時に相談している他、事業所の課題等について、法人本部を通して市に相談して助言を得ているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様に負担の無いよう、センサー設置をして転倒防止に努めている。	職員は、年1回の法人研修に参加している他、月2回の接遇・身だしなみ(身体拘束防止を含む)の法人の勉強会には、職員が交代で参加している。スピーチロックについては管理者が常に指導している。玄関は施錠していない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に一回本部が外部から講師を呼んで勉強会を行っている。又、会議でも話し合いを行い、防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前成年後見制度を利用されている方がおられた為、職員全員が理解している。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明を行い、わからない所は何度でも聞いていただき理解・納得をして頂く様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にご希望をうかがったり、面会用紙に意見を記入できるようにしている。	苦情相談窓口及び担当者、第三者委員、外部機関を明示し、苦情処理の手続きを定めて、契約時に本人、家族に説明している。運営推進会議時、年1回の交流行事、面会時、電話等で、家族から意見や要望を聞いている。利用者を担当す職員が利用者の近況報告を記載した家族便りを送付している他、毎日、面会に訪れる家族からの気づきを大切にしているなど、家族からの意見が出やすい関係づくりに努めている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時意見を出せるように努めている。	月1回の全体会議の中で、職員からの意見や提案を聞く機会を設けている他、管理者は日頃から意見を聞くように努めている。日常のケアに関することやリフォームの提案を受け入れている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、代表者会議が実施されている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	随時意見を出せるように努めている。 研修もその都度職員に案内の声かけをしている。	外部研修は、職員の勤務経験や段階に応じて受講できるように配慮している。法人研修は、年3回(車の事故について、虐待防止、認知症ケア)参加している。内部研修は、職員会議の中でトイレ誘導、食事介助、働き方の指針、業務標準等の勉強会を行っているが、十分とは言えない。	・研修の充実
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と合同で講演会に参加したり、5グループホームで文化交流会を行ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当職員を決め、相手をより理解するように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	センター方式を記入していただき、信頼関係に努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療との連携にも努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活していく上での信頼関係を築いていけるように努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族に食事介助をお願いしたり、外出等お願いしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	園に面会にきていただいている。	家族や親戚の人、友人等の来訪がある他、暑中見舞いや年賀状、手紙、電話の取次ぎなどの支援をしている。家族の協力を得ての墓参り、葬儀への出席、盆や正月の一時帰宅、誕生日の夕食、買物に出かけるなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないようように席替えをしたり、御利用者同士の会話が增えるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何かあれば、遠慮なく相談して頂く様声かけしている。入院されていれば、お見舞いに伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を利用したり、アンケート記入等思いの把握に努めている。	入居時のアセスメントシートを活用している他、日常の関わりの中での、利用者の様子や会話、気づきをケース記録に記録したり、定期的に利用者を実施するアンケート「思い出帳」を活用して、利用者の思いや意向の把握に努めている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族にセンター方式記入をお願いしたり、ご利用者との会話の中で把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人に合ったペースを心掛けている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	随時話し合い、より良く暮らしていける様に努めている。	計画作成担当者、利用者を担当する職員を中心に、ケアカンファレンスを毎月1回開催し、利用者や家族の要望、かかりつけ医の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。月1回モニタリングを実施し、3ヶ月毎に見直しをしている他、本人の状態に変化が生じた場合は、その都度見直し現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報を共有し、見直しにも活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組めるように努めている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員さんとの連携が築け、楽しく暮らしていける様に努めている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療が受けられている。	協力医療機関をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療がある他、歯科は月1回、皮膚科は3ヶ月毎、耳鼻科は年1回の往診をうけている。家族には受診結果を電話や来所時に報告をしている。緊急時は協力医療機関や看護師が対応し、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	何かあれば相談し適切なアドバイスを受けている。又、適切な医療が受けられている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携作りが出来る様努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や、終末期に向けた対応については、契約時に家族と話し合い意向の確認を行っている。	契約時に「重度化した場合における対応にかかる指針」を基に、事業所でできる対応について家族に説明している。重度化した場合には、利用者や家族の意向を踏まえた上で、かかりつけ医と相談し、他施設や医療機関への移設を含め方針を全員で共有し、支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハットの活用や、マニュアルを随時取り出せるようにしている。	事故報告書、ヒヤリハット報告書は、発見者が、その都度、発生状況を記録し、職員全員に回覧している。月1回の全体会議で再度、報告して検討し、一人ひとりの再発防止に取り組んでいる。事故発生への対応については、緊急時のマニュアルを基に、AEDの研修や窒息時の対応等の研修を行っているが、全職員が実践力を身につけるまでに至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て運営推進会議を兼ね、デイサービスと一緒に避難訓練を行った。しかし、地域との協力体制を築くまでには至っていない。	年1回、消防署の協力を得て、併設のデイサービスと合同で避難訓練、消火訓練、避難経路の確認等を行っている。訓練には、家族や運営推進会議のメンバーの参加を得て、利用者と一緒に実施している。年3回、事業所独自で火災時の避難訓練を利用者と一緒に行っている。地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重ながら、理解しやすい声かけを行っている。	「働き方の指針」や「業務標準」を基に定期的に勉強会を実施しており、職員は利用者の自尊心を傷つけず、プライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。管理者は、普段から利用者を人生の先輩として尊敬の念をもって接するよう全職員に伝えている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話やアンケートの中から個人個人の思いを汲み取るように努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の用意をしていただく時、自分の着たい物を準備して頂いている。又家族にお願いし、ご本人にあった服等お願いしている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方に出来る事をしていただきながら、食事準備や片づけを一緒に行っている。	昼食と夕食は、法人からの配食を利用し、朝食は事業所で調理している。月2回、利用者の好みの献立で昼食をつくっている。利用者は、盛り付けやテーブル拭き、お茶くみ、配膳、下膳、食器洗い、などできることを職員と一緒にしている。おやつづくり(回転焼き、ホットケーキ等)や誕生日のケーキ、外食(回転寿司、レストラン等)、年1回のピクニックなど、食事が楽しみなものになるよう工夫して支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や好みにあった物を提供するように努めている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後行い、毎月一回訪問歯科をお願いしている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的にトイレの声かけをしたり、自力で行けない方も誘導している。	事業所独自の排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりに応じた声かけや誘導で、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体質も考慮し、飲食物での工夫や運動に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	個々の希望も取り入れるようにしている。	入浴は毎日、14時30分から17時までの間可能で、利用者の希望や体調に合わせて支援している。利用者の状態によりシャワー浴や足浴、清拭などに対応している。入浴したくない利用者には、無理強いをせず、時間を変更したり、声かけの工夫をして支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心地よく休めるように努めている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	理解し支援している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式利用やアンケート記入等思いの把握に努め、楽しみごとの支援にと努めている。	テレビ視聴、折り紙、ぬり絵、習字、ボール遊び、歌体操(ズンドコ節、365歩のマーチ等)、パズル、間違い探し、計算ドリル、季節の壁画づくり、洗濯物たたみ、掃除、新聞を取りに行く、ゴミ出し、食事の準備、後片付け、花の水やりなど、楽しみごとや活躍できる場面づくりをして、張り合いのある日々が過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの思いに合わせて支援している。ご家族との外出もお願いしている。	地藏様参りや近隣の散歩の他、買い物時やゴミ出し時に利用者と職員が一緒に出かけている。季節の花見(松江神社の桜・梅、江汐公園のバラなど)、月1回の園芸教室、地藏祭り、ふれあい市場、年1回のピクニック、年3回の外食(回転寿司、ココランド、常盤公園)など、戸外に出かけられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に行っている買い物での支払いをお願いしている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月のカレンダー作りや壁画での季節感を把握して頂き、室温に気を付けたり、心地よい音楽を流して居心地良く過ごせるような工夫をしている。	ホール奥のガラス窓からは花壇の花を眺めることができ、その前のテレビコーナーに、ソファを配置し、利用者はゆっくりくつろぐことができる。壁には利用者と職員の共同制作の大きな紙細工を飾っている。温度や湿度に配慮し、利用者が居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーに座っての会話やテレビ視聴等思い思いに過ごせるように努めている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた筆筒や、家族写真、テレビなどを置いて居心地良く過ごせるように努めている。	寝具やダンス、鏡台、化粧品、椅子、衣装など、使い慣れたものや好みのものを持ち込み、壁には誕生日の飾りや家族の写真が飾って、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりに合った空間作りを心掛けている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム 芳玉園

作成日：平成 28 年 5 月 31 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	事業所と地域との付き合いの工夫が不足している。	地域の皆様と馴染みの関係を築く事が出来る。	デイサービスの皆様と一緒に、毎月1回地域の皆様とふれあい交流会を行っている。 (毎回いろいろなボランティアさんに参加していただいている)。	1年
2	4	評価の意義について、理解が不足しており、具体的な改善への取り組みが不十分である。	職員全体で評価の意義を理解し、目標達成に繋げていく。	目標達成計画に基づいた取り組みを行い、継続的に目標達成状況の確認を行う。	1年
3	5	地域からは、民生委員の参加は得られているが、自治会長等、地域からの協力が得られていない。	運営推進会議の参加メンバーの拡大。	民生委員さんに声掛けし、地域の方に参加して頂く。(H27年12月より児童委員の方に参加していただいている。)	1年
4	35	緊急時について、初期対応の実践力が身に付いていない。	職員全員が緊急時の初期対応を身に付ける。	定期的に訓練を実施する。 (GH会議やミーティングを活用)	1年
5	36	災害時について、近隣住民との協力体制が弱い。	地域との協力体制の構築。	避難訓練の際に、近隣住民に対しても参加を呼び掛ける。 入居者様と一緒に朝市に参加して、地域の皆様と関わり合いを持つようにする。	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。